

はじめに

本ブックレットは、2020年12月11日に2020年度南山大学人類学研究所第3回公開講演会「デジタル時代における障がいと日本」設立記念イベントとして行われたウェビナーの書き起こしである。ウェビナーの録画は、こちらのリンク(<https://vimeo.com/529545847>)からご覧いただける。登壇者は、講師がモンドリ・フランク氏、応答者がブックマン・マーク氏であり、私は当イベントの司会を務めた。

障がい者は、世界的に最も排除されたグループの一つであり、COVID-19の危機は既存の不平等を露呈し、さらにその不平等を深めている。しかし、現在は、障がい者を社会に取り込むことを促す時代である。その課題に焦点を当て、人類学研究所がこのシリーズと研究プログラムを始めた。

「デジタル時代における障がいと日本」の研究プログラムは、日本における障がい研究を取り巻く主要な課題を調査する。研究内容は、大別して3つある。第一に、障がい研究、第二に、聴覚障がい研究、第三に、障がい学と聴覚障がい学が複合する部分とそうでない部分についてである。

この3分野の研究から、ステークホルダーが、法律、政策、教育、就労、メディア、テクノロジー、ジェンダー、性だけでなく、その他様々な国内での開発や、国際的な革新を活用し、日本における障がいの概念をどう作り上げているのかを、明らかにする。ブックマン・マーク氏を中心に当プログラムを遂行し、講義や出版物、ポッドキャスト(Asian Ethnology Podcast)を実施している。

最初の2つのポッドキャスト配信は、ブックマン・マーク氏(インタビューアー:ドーマン・ベンジャミン)と今回の講演者であるモンドリ・フランク氏(インタビューアー:ブックマン・マーク)に対するインタビューである。

本書の講演者は、スタンフォード大学の博士号取得候補者モンドリ・フランク氏である。彼は現在、20世紀の日本の聴覚障がいのための機器における社会的、技術的、政治的歴史に関する博士論文を執筆中である。

ブックマン・マークは、ペンシルベニア大学所属博士課程の研究者(当時)であり、現在は東京大学博士研究員である。彼は、過去150年間の日本国内外における障がい者政策の歴史と、それに関連する社会運動に取り組んでいる。彼はアクセシビリティコンサルタントでもあり、さまざまな国の政府機関や企業と協力して、障害者集団のインクルーシブ教育、公平な交通手段、災害危機対策に関連するプロジェクトに取り組んできた。

本書「デジタル時代の障がいと日本」シリーズ、および南山大学人類学研究所の活動にご関心をお寄せいただき、感謝を申し上げたい。

2022年3月01日

ドーマン・ベンジャミン

南山大学教授

南山大学人類学研究所 第一種研究員



左上からモンドリ・フランク、ドーマン・ベンジャミン、ブックマン・マーク (2020年12月11日

ウェビナー/スクリーンショット)